

道岳連だより

広報 NO.69
平成25年8月24日
北海道山岳連盟

<http://www.hokkaido-HAA.net/>

三浦雄一郎氏講演決まる

道山岳遭対「安全登山シンポジウム」

2013.11.19(火) 午後6時30分 札幌エルプラザ3F大ホール

主催 北海道山岳連盟 北海道山岳遭難防止対策協議会
その他の講師 富山県警山岳警備隊長 高瀬 洋氏
国際認定山岳医 大城 和恵氏

毎年秋に行われていた北海道山岳遭難防止対策協議会(道遭対協)主催の「安全登山シンポジウム」が、今年は道遭対協に加えて北海道山岳連盟の共同主催で開かれることになりました。

昨年の北海道警察が主管したシンポジウムは、8000m峰全山登頂者竹内洋岳氏を講師に招き大変な盛況でした。今年は道警が手を引いたことから、その開催を道岳連に託され、資金面で悩みましたが、継続することが大切と考え、国際認定山岳医で日本山岳協会山岳医でもある大城和恵氏の助言協力を得て、エヴェレスト最高齢登頂を果たした三浦氏の招聘に成功しました。

三浦氏に加えて、富山県警山岳警備隊長であり、警察庁広域技能指導官でもある高瀬 洋氏も講演を快諾していただき、昨年を上回る内容を整えることができました。

日時は11月19日(火)午後6時30分、会場は札幌エルプラザ3階大ホールで、入場料は昨年まで無料だったことから、今年だけ有料とすることもできず無料のまま据え置くことにしました。但し、エルプラザの収容人員が320名なので、申込方法を検討中です。開催詳細は後日HP上に発表します。

山岳会の研究・実績募集

従来の「活性化研修会」に変えて

この度、例年3月に行っていた「山岳会活性化研修会」の内容を、道岳連傘下山岳団体の「発表の場」に変えることにしました。

従来の「山岳会活性化研修会」はそれなりに意義のある研修会でしたが、内容が抽象的で難しいため、マンネリ化して活発かつ発展的な議論が出ず、担当者が非常に苦慮していました。

そこで、各山岳会が取組やすい内容とのことで、ひとつは各山岳会が現在取り組んでいる、あるいは取り組みたい山に関する研究テーマ、もうひとつは自山岳会が取り組んだ山の実績、という二つのテーマで、各山岳会の発表の場として募集することにしました。

発表の内容及び実施要項は次のとおりです。奮って応募ください。

①**テーマ研究発表** 【内容】テーマはあえて指定しません。現在各山岳会で取り組んでいる山に関する研究、または、今後取り組みたい研究なら何でも結構です。

例；遭難の事例研究、山域の研究、気象・気候研究、登山史・登山家研究 その他

②**山行活動研究** 【内容】山行記録発表

例；山行のねらい、準備、実践・反省など

③**実施時期** 年度の山行活動の修了する3月

④**募集締切** 8月末（発表の意志でも結構です） 応募先 道岳連総務委員会 神山

※応募がない場合は、10月末までに各山岳会に発表依頼をします。



北海道トレイルランニング大会 2013 in ルスツ… 9月22日

今年も北海道アウトドアフェスティバル2013のトレランが9月22日にルスツリゾート・貫気別岳周辺で開催される。開催にあたり、実行委員長の佐藤道岳連副会長は、会員に対し地方陸連、マラソン同好者など幅広い層にパンフレット配布などを依頼するとともに、今年から新たに70kmコースも加わり、昨年より多くの役員が必要で、新設コースの草刈など事前整備の要員についても募集している。

行事・各委員会事業報告

平成25年度総会・第1回理事会 5/19 札幌市民ホール

平成25年度北海道山岳連盟総会・第1回理事会は、5月19日(日)午前10時より札幌市民ホールで73名の代議員・理事が出席して開催された。

小野会長の挨拶の後、総会議長団に苫小牧山岳会の泉田代議員、美唄山岳会の山田代議員を選任し議事がすすめられた。今総会に提出された議案は、第1号議案 平成24年度事業報告 第2号議案 平成24年度各会計収支決算報告 第3号議案 会計監査報告 第4号議案 加盟承認申請 第5号議案 平成25年度活動方針(案)及び事業計画(案) 第6



号議案 平成 25 年度会計予算(案) 第 7 号議案 その他(第 27 回北海道山岳連盟交流登山大会、第 4 回北海道トレイルランニング大会)についてで、各担当常任理事よりそれぞれ説明があり、提案どおり承認された。

昼食休憩時に、スポーツクライミングで活躍する道内選手のスライド映写があり、新規加入団体の北海道 F C 協会稲田理事長、北海道トレイルランニングクラブ武田代表から挨拶があった。総会終了後に引き続き第 1 回理事会が開催され、組織・事務局体制、平成 25 年度加盟金の確認と早期納入についての要請があり、総会及び理事会を終えた。

日高登山研修所開き・安全登山研修会 4/13-14

長かった冬の季節が終わり、日高登山研修所に大勢の人が集まり安全登山について意見交換、実技研修を行った。石川美幸管理栄養士による山の栄養学では、食事による身体づくり、栄養素の働き、カルシウムの摂取等々専門分野からの視点に、平時からの体づくりが大事と教わる。交流会では新得山岳会員による“手打ちそば”も披露され、舌鼓を打った。

山スキー研修では山岳スキー指導員から春スキーの対処、悪雪への対応を学び取る。スノーシュー一班は二つに分けての登山で、未踏ルートの調査を含め残雪深い山に熊のトレースを頼りに？急登を乗り越えて新しい山頂に達する(下主山)。体育館ではロープワークとスポーツクライミングに汗を流す。それぞれが今シーズンの安全登山への意識づけを学んだ両日でした。

(報告 明田 登山研修所運営委員長)

現地研修参加状況 山スキー 39 名(熊見山～旧日勝スキー場) クライミング 11 名
スノーシューⅠ 7 名(下主山) スノーシューⅡ 8 名(某熊見山) 応急手当研修 5 名



指導委員会総会



山スキー研修班

夏期遭難対策研修会 5/25-26 日高登山研修所及び周辺

遭難対策研修会は、5 月 25-26 日の両日道岳連登山研修所で行われ、参加者は北海道新聞募集により一般愛好者 12 名の参加があり、総勢 30 名での研修となりました。

初日は午後 1 時から室内において、道内の遭難状況と遭難が起きる要因など、過去の事例を交えての講話とともに、道内のヒグマの生態と対応などの講義を行いました。続いてロープの種類や結びについて座学で講義が行われた後、体育館でロープの扱い方、ロープの結びについて研修の実践を行い、エイトノット、プルージック、クローブヒッチなど安全確保について研修を行いました。

二日目は、砂防ダムの両斜面 20mを使い、登攀と懸垂下降を実践、沢の巻道の安全登山の研修を行いました。
(報告 遭対委員長 斉藤 邦明)



指導員養成講習会(無積雪期) 6/23-24 日高登山研修所他

平成 25 年度の山岳指導員養成講習の無積雪期講習会が、6 月 15-16 日に日高登山研修所と上滝ロックで実施されました。一日目は研修所で机上研修、二日目は上滝ロックの岩場で実地研修が行われ、18 名にのぼる受講者は、両日とも真剣に講習に臨んでいました。

このあと、講習会は検定会、積雪期へと続きます。



登攀研修会 6/2 室蘭チャラツナイ海岸・足寄芽登ロック

今年度初の試みとして、研修会場を道央・道南地区(室蘭チャラツナイ海岸)と道北・道東地区(足寄芽登ロック)の2ブロック開催として実施。チャラツナイは参加者 26 名+講師 8 名、芽登は参加者 14 名+講師 4 名と両会場とも多数の参加となりました。研修内容は、①用具について ②ロープ結び ③トップロープによるクライミング ④隔時登攀 ⑤懸垂下降を行いました。

沢登り・登攀研修会 6/29-30 野塚岳

沢登り研修は、日高山系野塚岳(ニオベツ川遡行)で 13 名の参加者とスタッフ 5 名で開催。一日目は渡渉技術、増水時のロープワーク、支点作成方法、ムンターヒッチによる確保などを現場研修。

二日目にニオベツ川を遡行し野塚岳を目指す沢登り実践の途中、事故が発生し中止に至った。

… 指導委員会研修事業における事故報告 …

指導委員会委員長 明田 通世

1. 登攀研修会における事故（6月2日 10:40頃 チャラツナイ海岸岩場）

登攀研修会当日、講師が懸垂下降セット時のロープのからみつきを直そうとルンゼを登り、岩に手をかけたところ剥がれ落ち、本人が転落し左足関節内果・外果骨折の重傷を負う。

2. 沢登り研修会における事故（6月30日 8:45頃 ニオベツ川標高990m付近）

研修二日目、ニオベツ川を遡行中 990m地点の滝付近を通過している時に、隊列の中間付近で落石が発生し、砕け飛び散った岩に当たるなどスタッフ2名と参加者1名が滑落。骨折や全身打撲などの重傷を負う。

8月中旬現在、負傷者3名とも順調に回復中。後遺症の恐れもない模様。

いずれの事故も、現場での応急手当、救急車・救助ヘリを要請し医療機関へ救急搬送、道警事情聴取を受け、道岳連三役等に状況報告をした。

このような事故を起こし、負傷した本人はもとより、事業参加者や関係者にご迷惑をおかけし深くお詫び申し上げます。今後に向けて事故の状況を十分検証し、研修手順等の問題点等を洗い出して再発防止に努めてまいります。

夏山講習会part I 7/7 十勝岳

夏山講習会 part I は、7月7日（日）参加者24名、スタッフ6名で実施、心配された天気も晴れて絶好の登山日和となった。

森林地帯→ハイマツトンネル→雪渓→白骨化したハイマツ→お花畑→砂漠→大雪渓→十勝岳山頂と、十勝岳新得側はとても変化に富んだ楽しいコースである。

午前6時登山口を出発、11時30分十勝岳山頂に着いた。あいにく山頂は雲がかかり眺望はきか



新得側斜面の大雪渓を登る



十勝岳山頂で

ない。休憩中一度だけ雲が晴れ、360度視界が広がった時は「ワー綺麗！」と歓声が上がった。

下山は沢つたいに雪渓を下ったので、思いがけなく早く下山ができた。「十勝岳 新得側コース」機会があれば皆様には是非訪れていただきたい山である （報告 普及委員長 荒堀 英雄）

第 25 回中高年安全登山講習会 7/13-15 ニペソツ山

今年の中高年安全登山講習会は、標高年「ニペソツ山(2013m)」に挑んだ。7月13日(土)～15日(月)の二泊三日で実施したが、昨年から運が向いてきたのか連日晴れの良い天気となった。

13日は「ネイパルあしよろ」で机上講習「気象」「地図の見方とコンパスの使い方」「アクシデントに備える」をテーマとした。座学は中高年の皆様にとっては少々苦痛だったように見受けられた。



14日は標高年「ニペソツ山」登山。5時バスで出発、7時登山口に到着予定だったが、今年は標高年とあって登山者が多く、林道両脇に車の列、バスが留められず登山口1km手前から林道歩き、この小ハプニングにより30分遅れで登山口スタート。小天狗の岩場のセミクライミングは、登りも下りも皆様難儀されたようである。

登るにつれて眺望も開け、大雪山やトムラウシ、石狩連峰、遠くには阿寒、知床、日高の山々まで一望できた。天狗平では眼前に聳える勇壮なニペソツ山を見て、山頂への思いで胸が高まったはずだ。きついアップダウンを繰り返して、山頂に全員が調達した。予定時間を1時間ほど超えていた。参加された皆様の熱い情熱が実を結んだといえる。



標高年ニペソツ山山頂

まり走行不能となったのだ。携帯電話も無線も通じない陸の孤島地帯での事件。参加した皆様「バスの中でビバークか」と覚悟を決められたそうである。幸運にもパトカーが通りかかり、事情を説明し乗せてもらい、糠平温泉ホテルから車を出していただき、皆様を温泉まで運ぶことができた。温泉入浴と生ビールを飲みながら遅い夕食(鹿井)。この時すでに22時を過ぎ、バスが直って糠平を出たのが22時30分、「ネイパルあしよろ」に着いたのが23時30分、子どもたちが寝静まったミッドナイト交流会も小ハプニング。大小のハプニングも疲れもどこえやら、念願の標高年ニペソツ山に到達した満足感の方が大きかった。深夜1時に解散。

15日は朝食後、閉講、解散としたが、みな疲れた身体で帰路についた。苦難を乗り越えて全員無事に目的を達することができ、この上なく満足の中高年講習会であった。

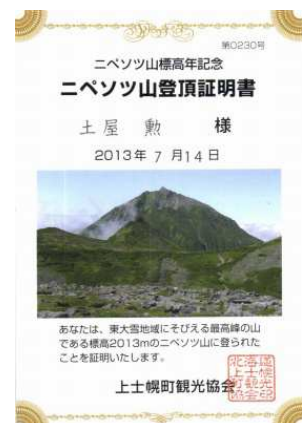
更に標高年記念「ニペソツ山登山証明書」までいただき、思わぬサプライズだった。

(報告 普及委員長 荒堀 英雄)

登山道には高山植物が花を咲かせ、疲れも吹き飛ばす一服の清涼剤としては充分すぎるほどであった。

下山も三度のアップダウン、登山口に到着したのは2時間遅れであった。

それでも温泉と夕食、楽しい交流会の運びとなるころであったが、誰もが予想しなかった大ハプニングが起こった。バスのタイヤに石が挟



中高年安全登山講習会に参加して

石狩市 小笠原 智子

ニペソツ山については、山の本で見て一度は登ってみたいと思
っていましたが、送っていただいた資料等を見て大変な山行に気が
つき、期待よりも自分が登れる山だろうかと不安が先に立ち、だん
だん心細くなってきたのが現実でした。

13日の講習会では、今まで何回受講しても覚えきれない地図とコ
ンパスの使い方等、手取り教えていただき、又登山中の低体温症、
熱中症や転倒した時の対処法、などについて受講して次の日の登山
のため早寝してグッスリ眠りました。



14日の天気は快晴、登山口の林道脇の駐車スペースは、一般登者の車が満車状態でびっくりしまし
た。登山口から全員で登山開始、歩き始めて最初の川で丸太橋に恐怖、さらに登り小天狗の岩場で恐
怖、もう「だめ」と思いましたが、スタッフの方のアドバイスや声かけで冷や汗をかきながら渡り切
りました。それからは、ほとんど無言で登り下りを繰り返し、まわりの方からあと少し、もう少しと
励ましの声を掛けてもらい手伝ってもらいながらニペソツの山がパンフレットより美しく見えると
ころまでたどり着きました。途中咲いていた花々や時計を見る余裕はなかったけれど、山頂にたどり
着いた時には、涙が出そうになりました。

山頂からの眺めは「素晴らしい」の一言でした。見える山々は知らない山がほとんどでしたが、少
し聞いたことのある山や眼下の糠平湖がよく見えました。

下りとはとにかく転ばない様子を気をつけて、ベテランの方にザックを押し上げてもらったり助けても
らいながら、あの小天狗の岩場も怖かったけれど恐る恐る通過、何度も心の中でもうだめだーと思っ
たことが有りましたが何とか下山することができました。

恥ずかしくて「バンザイ」とは言えなかったけど、スタッフの方々、参加された皆様のお蔭で経
験の少ない私も、標高年のニペソツ山に登ることが出来ました。これからも何処かの山で一緒に
することがありましたら宜しくお願いいたします。 ありがとうございます。

ジュニアとぞん教室 2013 8/3-4 日高登山研修所・北日高岳

今年度のジュニア育成事業「ジュニアとぞん教室 2013」は、子ども 18 名、保護者 10 名の参加者
とスタッフ 10 名で実施しました。一日目は開校式のあと、登山研修所体育館でクライミング体験、
初めての子どもたちも上手に登れるようになりました。クライミングが終わると恒例のスイカ割り
大会、ルピガーデンを見学し、参加者も協力して夕食の準備、カレーにいろいろなものをトッピングするお楽しみメ
ニューでした。そして夜のイベントは「花火」。子どもたちも
すっかり打ち解け名前呼び合っています。自由交流後は明日
の登山に備えて早めの就寝、一日目が終わりました。

今日も青空が広がり☀ 8時過ぎに研修所を出発し、北
日高岳に登ります。登山口からの林道では昆虫探しなど
で子どもたちは大忙し、なかなか前に進みません。2時
間半かけて北日高岳頂上(751m)に到着。スキー場リフ



ト架け替え工事中のため、来た道に戻り 14 時前に全員無事下山。閉校式で日山協からの修了証を受け取る子どもたちの顔も誇らしげです。そして、永年登山教室に参加し、今年中学 3 年で教室を卒業する千葉匠太郎君に神山理事長から賞状と記念品が贈られました。

また、今回の募集で、地元日高町の「日高山脈登山会議」に日高町内児童・生徒全員にチラシの配布、参加料助成の支援体制をとっていただきました。

(ジュニア委員長 内藤 美佐雄)



北日高岳頂上で登頂記念撮影

JMAユース日本選手権 2013

3/30-31 千葉県印西市

小武 芽生選手が優勝 … 第 16 回目を迎えた JMA ユース選手権は、3 月 30 日～31 日千葉県印西市松山下公園総合体育館で開催され、道内選考会で選抜されたユース 6 選手が出場した。

この大会で、女子ユース A に出場した札幌市立宮の丘中 3 年(出場時) 小武 芽生選手は決勝でもこのクラスでは圧倒的な強さを発揮し、北海道チームとしては杉本選手以来の表彰台頂点に立った。

出場各選手のカテゴリー別成績(大会時の学校学年)

小武 芽生(札幌宮の丘中 3)	女子ユース A	1 位/23 人
佐々木里穂(北海学園札幌高 1)	女子ユース A	9 位/23 人
森谷 亮太(遠軽高 2)	男子ジュニア	14 位/31 人
小山 彬(札幌稲雲高 1)	男子ユース A	20 位/44 人
松浦 凌(遠軽高 1)	男子ユース A	30 位/44 人
岸本 武蔵(美唄市立東中 3)	男子ユース A	38 位/44 人



優勝した小武選手

JOCジュニアオリンピックカップ代表選考会 6/16

JOCジュニアオリンピックカップ代表選考会は、6月16日旧美唄工業高校体育館クライミングウォールでリード男子17選手、リード女子5選手が出場して開催された。成績と代表選手は次のとおりで、8月10日～12日富山県南砺市で開催される本大会に出場する。

《リード男子》 武者 知希(江別高校1年) 《リード女子》 佐々木 里穂(北海学園札幌高校2年)
 松浦 凌(遠軽高校2年) 寺田 江梨花(遠軽高校2年)
 岸本 武蔵(美唄尚栄高校1年)
 森谷 亮二(遠軽高校3年)

第63回国体山岳競技北海道ブロック予選会 7/27-28

国体予選会は、平成25年度北海道体育大会山岳競技を兼ねて、7月27日ボルダリング競技が札幌ノースケイプジム、28日リード競技が旧美唄工業高校体育館クライミングウォールで開催された。

6種目の競技結果は次のとおり(上位3人まで掲載)

ボルダリング 少年男子			ボルダリング 成年男子		
1	浅利 礼一	札幌工業高校	1	古坂 賢太	ウィップス
2	小山 彬	レインボークリフ	2	國谷 斗馬	HFA
3	高木 智和	札幌工業高校	3	梅津 恒平	酪農学園大学

ボルダリング 少年女子			ボルダリング 成年女子		
1	佐々木 里穂	北海学園札幌高校	1	一安 瑛子	
2	寺田 江梨花	遠軽高校	2		
3	菅原 未紗	遠軽高校山岳部ジュニア	3		

ボルダリング ビギナー		
1	鈴木 爽	富良野緑峰高校
2	佐々木 雄大	酪農学園大学
3	西尾 睦	酪農学園大学

リード 少年男子			リード 成年男子		
1	小山 彬	レインボークリフ	1	一安 敏文	HFA
2	松浦 凌	遠軽高校	2	古坂 賢太	ウィップス
3	岸本 武蔵	美唄尚栄高校	3	國谷 斗馬	HFA

リード 少年女子			リード 成年女子		
1	小武 芽生	北星学園女子高校	1	一安 瑛子	
2	佐々木 里穂	北海学園札幌高校	2		
3	亀田 桃子	遠軽高校	3		

リード キッズ			リード ビギナー		
1	皆川 莉子	札幌豊園小学校	1	佐々木 雄大	酪農学園大学
2	井上 桜花	札幌清田緑小学校	2	西尾 睦	酪農学園大学
3	皆川 果歩	札幌豊園小学校	3	高橋 諒	北海道工業大学



☆10月4日～6日の東京国体代表選手は、各種別正選手2名、補欠1名の合計12名を選考し、強化を行っていく。

リベンジ 大成功 夏山講習会II「北戸蔦別岳」8/10-11

今年の夏山講習会、3回目となる夏山講習会 part II は、8月10～11日の2日間、過去3度挑戦し退けられている「北戸蔦別岳」を目指し実施しました。

夏山最後の事業ともあって参加者40名で一番多くなり、スタッフを加えると50名近い大部隊となりました。

登山の前日10日(土曜日)は小雨の降る怪しい天気「また駄目かな?」と不安がよぎる、しかし時間の経過と共に回復し、夕食交流はコンロを囲んでの楽しい「バーベキューパーティー」、明日の山頂到達を誓い合いました。



室内での講習は「地形図の見方とコンパスの使い方」「アクシデントに備える」をテーマとして行いましたが、参加者の方々に苦手としているコンパスを使えるように成ったか否か気になる所でした。

登山当日の11日(日曜日)、垂れ込んでいた低い雲は夜明けと共に晴れて絶好の登山日和に恵まれました。ゲートから登山口までの林道歩き、二岐沢、一番心配した二ノ沢登山道(6回沢横断)も特に問題なくクリア、ジグザグが少

なく直登の登山道は東西随一と思われる急傾斜で登りも下りも難儀しました。期待した「トツタの泉」は、僅かに流れ出る清水を皆で分け合って大事に飲み、ペットボトルに注ぎ喘ぎ喘ぎ登りきると稜線です。稜線上は別世界でした、眼前に雄大な幌尻岳と北カール、左に急峻な戸蔦別岳、4回目にしてリベンジ大成功を喜びあいました。

北戸蔦別岳は「北日高の展望台」に相応しい眺め、山頂に到達し目に飛び込んできた光景は「わ



B班 (ヌカピラ岳)

ツ岳と残雪を抱いた北東カール、札内岳、十勝幌尻岳と続き、更に伏美岳、ピパイロ岳、1967峰、チロロ岳、ペンケヌーシ岳・・・と360度の天望は圧巻でした。

8月ともなれば山は夏の終わりを告げており、早いところではウラシマツツジの紅葉が始まっています。しかし残雪の解けた沢の源頭部では高山植物が競って花を咲かせ去りゆく短い夏を懸命に体いっぱい受け止めていました。

一綺麗、登って来られるとは思わなかった〜」などと皆様一様に歓声をあげていました。きっと疲れを忘れて感激に浸っていたように見受けられました。

目の前には戸蔦別岳、右側には幌尻岳と北カール、遠くにはエサオマントツツタベ



C班 (北戸蔦別岳)



D班 (北戸蔦別岳)

下山途中、先行する単独登山者が二ノ沢最後の横断で転倒、頭部(額)裂傷による出血現場に遭遇、応急手当を施し付添うハプニングにより下山時間が遅くなってしまった。

「登山では助け合いが大事」を現実として学ぶ事ができた講習会でした。

(報告：普及委員長 荒堀)

北戸蔦別岳 (チロロ川 二岐沢⇄二ノ沢コース) [参考にして下さい]

登り：北電ゲート→(1:00)→登山口(北電取水口)→(0:40)→二ノ沢分岐→(1:00)→尾根取り

付き→(1:00)→トツタの泉→(1:20)→稜線→(1:00)→北戸蔦別岳山頂【6時間】

下り：北戸蔦別岳山頂→(0:40)→稜線→(1:00)→トツタの泉→(0:45)→二ノ沢→(0:45)→二岐沢出会→(0:40)→登山口→(0:40)→北電ゲート【4時間30分】

【参加者感想】北戸蔦別 登れたー！！ 山崎 忍

1泊2日で北海道山岳連盟主催の夏山講習会に参加しました。

1日目。座学ではコンパスの使い方やアクシデント対策について学びました。教えてもらった時はできるけれど、時間がたつと忘れてしまうコンパスの使い方。こうやって講習会に参加し、定期的に学ぶことで覚えられそうな気がします。正しく使えると自分のレベルが一段階上がった

気がして嬉しいです。

続くアクシデント対策の話は、初めて聞くことも多く楽しかったです。体重と登山時間による水の量の換算表は、とても参考になりました。

さて、2日目です。予定通り5時に出発。一般登山口より奥までバスが入りますよーと聞き、「やった、ラッキー♡」、とっていました。が、ついしてみると何と鍵が開かない！！

結局歩くことに。地道に頑張らなさい、ということだったのでしょね。

沢は、最初おっかなびっくり渡っていたのですが「思い切って渡った方が安全」と教えてもらい、それからガシガシと渡って行きました。確かに、その方が滑らないようです。

沢の後の尾根取り付きが大変でした。道はドロドロで急です。時計を見ると時間も押しているし、急登はまだまだ続きそうだし、今回登頂は無理かも…、と思いながら黙々と歩いていました。

でも、何とかヌカピラ岳手前の展望台到着。前を見ると目標北戸蔦別。上を見ると空は快晴。お花畑はきれいだし、風もとっても心地いい。がぜんやる気がでます。あとちょっと♪あとちょっと♪と思いながら山頂を目指しました。

山頂到着。標識にタッチして記念撮影。向こうを見ると戸蔦別岳、幌尻岳。あれだけ「もう無理…」と思っていたことを忘れ、「あっちに行ってみよう！！」
と思ってしまうのです。

さあ、下山。コケないように、膝が痛くならないように、慎重に歩を進めていきます。歩いている最中、単独で登っていた方が怪我をした、という連絡があり、主催者の方々が引き返します。同行の方では無くて困っている人がいたら戻るので、さすが山岳連盟。と思うと同時に「単独行って怖いなー」ってしみじみ思いました。

日高研修所についたら解散になってしまい、お礼も言えないまま帰ってきてしまいました。改めてお礼申し上げたいと思います。自分一人では絶対無理、と思っていた山に登頂することができたのは、山岳連盟の方々の心くばりがあったからだと思っています。ありがとうございました。

今後の諸行事

第27回北海道山岳連盟交流登山大会日高大会

1. 期 日 平成25年8月24日(土)～25日(日)
2. 会 場 日高町 沙流川オートキャンプ場
登山行動 北戸蔦別岳ほか6コース
3. 対 象 北海道山岳連盟加盟会員(参加申込 受付終了)

日本一の富士山頂に泊ろう！ 高所登山講習会

1. 期 日 平成25年8月23日(金)～25日(日)
2. 会 場 富士山(富士宮登山口～山頂小屋泊)(参加申込 受付終了)

11月までの諸行事予報

北海道アウトドアフェスティバル 9月21日(土)-22日(日) ルスツ
自然保護委員会研修会 10月12日(土)-13日(日) 大滝セミナーハウス
第2回理事会 10月27日(日) 道立総合体育センター
日高登山研修所閉所式 11月3日(土)-4日(日) 日高登山研修所
安全登山シンポジウム 11月19日(火) 札幌エルプラザ

道岳連2013Tシャツ「斜里岳」販売中

日本百名山シリーズ No. 6

販売価格 1枚 2,000円

色は4色 白 緑 ピンク 濃紺



道岳連だより

北海道山岳連盟広報 No.6 9 平成25年8月 日発行

発行 北海道山岳連盟 (札幌市豊平区平岸2条9丁目1-47-502)

発行責任者 小野 倫夫 編集担当(総務) 内藤 美佐雄